



◆大使からの活動報告(11月から12月上旬) 天皇誕生日レセプション・外交80周年記念式典他

2015年12月4日

在グアテマラ日本大使館
特命全権大使 川原英一

◆日本文化祭(11月5-7日)の開催

首都にあるラファエル・ランディバル大学で、同大学学長・関係者、同大学アニメ同好会他一般学生、元国費日本留学生会、日本の武道愛好家、折紙協会、元JICA研修生会、日本人学校などの御協力を得て、日本文化祭を実施したところ、連日、多くの参加者に楽しまれ、大好評でした。



1日目(11月5日)午前、ランディバル大学学長ら大学事務局関係者、当大使館、一般学生達など多数が出席して、日本文化祭オープニング式典が行われました。当方より、この文化祭は、日本とグアテマラの外交関係80周年を記念した活動の一環として実施され、当国の方々にとり、日本がより身近に感じて頂ける機会となることを期待している旨ご挨拶致しました。



その後、専修大学狐崎教授による講演があり、戦後日本とグアテマラ・中南米諸国との経済・社会事情比較などに関する興味深い内容でした。その後、大学内でのレセプションに出席後、学内の催し会場(プラザ・ランディバル)で、着物の着付けと写真撮影コーナー、日本の名勝・寺社のミニチュア模型展示、盆栽展示など見て回りました。特に、着物・浴衣の着付けと撮影コーナーは、関心を持った多くの学生たちが、順番待ちの状況で、着物を着て日本の秋を背景とした写真撮影は大変に好評でした。



日本文化祭2日目、3日目にも、着物の着付け、折紙コーナー、墨絵の実技指導、書道体験コーナー、合気道デモンストレーション、日本の防災キャンペーンを参考にした防災研修、学生たちによるアニメ・コスプレ、日本への留学情報コーナー、

そして、和菓子づくり(右写真)と茶道お点前のデモンストレーションなどが実施されました。

特に、3日目午前に行われた日本人講師による和菓子づくりと茶のお点前デモンストレーションは、日本文化に関心を有する当国の方々に大好評でした。裏千家メキシコ事務所駐在の丸岡宗陽講師による和菓子づくりデモンストレーション、メキシコ人お弟子さんによるお茶のお点前デモンストレー





シヨン、宗陽講師による茶道に関するわかりやすく、楽しい解説が好評でした。

デモンストレーションで披露された見事な和菓子は、観客にお茶とともにふるまわれました。観客の皆さんは、和菓子的美しさ、見事さ、茶道に関する講演内容に大いに感銘した御様子で、奥深い日本の伝統文化の素晴らしさが理解できたと感想を述べておられました。



皆さんは、和菓子的美しさ、見事さ、茶道に関する講演内容に大いに感銘した御様子で、奥深い日本の伝統文化の素晴らしさが理解できたと感想を述べておられました。

◆外交80周年記念式典(クロージングセレモニー)

11月19日、フエンテス・グアテマラ共和国副大統領がホストとなり、日本との外交関係80周年の最後を飾る記念式典が、政府関係者、外交団、日本人学校小学生・先生方の御参加を得て、国家文化宮殿内の中庭で行われました。(左写真:左端からエストラーダ外務次官、メネンデス文化次官、フエンテス副大統領、右側は本使夫妻)



日本との外交関係80周年の最後を飾る記念式典が、政府関係者、外交団、日本人学校小学生・先生方の御参加を得て、国家文化宮殿内の中庭で行われました。(左写真:左端からエストラーダ外務次官、メネンデス文化次官、フエンテス副大統領、右側は本使夫妻)



フエンテス副大統領からは、従来から日本によるグアテマラへの協力が多方面で実施されてきていることに対する感謝のお言葉があり、「平和の使者」として当方を指名頂き、平和のシンボルとなっている彫刻の手の上に置かれた白バラを新しく交換する儀式を行いました。その後、当方、そして副大統領が記帳を行いました。最後に当方からご挨拶を申し上げ、日本とグアテマラの絆を示す技術協力の例として、小学校算数国定教科書「グアテマティカ」の編集、日本政府の招きによる総数2千名を超える防災・環境その他各種分野へのグアテマラ人に対する研修実施や日本から当国に派遣された協力隊員数が通算で650名以上となっていること、日本への国費留学生数が95名となったこと、今年4月、デル・バジェ大学と金沢大学との協力に関する覚書署名が行われたことや金沢大学と当国文化省との間で、ティカルにあるマヤ遺跡の保存と研究などに関する学術協力が進められていることなど、御紹介致しました。



両国の外交樹立80周年の最後を飾る日本の文化紹介行事として、和太鼓演奏チーム(ヒダノ



修一と太鼓マスターズ)を日本からお招きして、FIFAワールド・カップのフランス大会閉幕式、日・韓合同ワールド・カップでの開幕・閉幕式で演奏された演目を、式典参加者にご披露して頂き、大好評を博しました。

この式典後、フエンテス副大統領とご一緒に、同宮殿内の回廊で当国記者との会見に臨みました。当方からは、この国の発展・繁栄に向けて、新政権へ移行後も

引続き協力を行って参りたいとの発言を行いました。

■和太鼓(ヒダノ修一と太鼓マスターズ)の当地公演

わが国文化庁の助成を得て、和太鼓チーム(ヒダノ修一と太鼓マスターズ)が、3週間にわたり、メキシコ・中米5ヶ国公演のために各国を巡っており、その最後にグアテマラ公演が実現しました。特に、19日夜、市内LUX劇場での公演では、観客が演奏者と一緒になって、和太鼓のリズムを楽しむことができる、大変に多彩なプログラム内容でした。曲目の中には、当国民に人気のある地元曲チマルテナンゴ演奏や沖縄民謡を蛇味線での弾き語り公演もあり、大変に盛り上がりました。アンコール曲リクエストでは、やはり、FIFAワールドカップ閉幕式などで使用された曲が披露され、大盛況裡に幕となりました。



■公館長表彰(金沢大学 中村誠一教授)



11月25日夕、大使公邸にデル・バジェ大学学長、文化省関係者、元国費留学生、JICAプロジェクト研修生、JICA関係者、日本人学校校長などの皆様にご出席を頂き授賞式を行いました。

金沢大学中村誠一教授(左下写真、左側の方)とマヤ遺跡との直接の関わりは、1983年に考古学協力隊員としての御活躍からはじまりました。今世紀に入ってから、マヤ文明のスーパースターであるティカル遺跡の調査・研究を開始されました。ティカル遺跡保存研究のためのセンターが日本の協力で建設された背景には、中村先生の長年にわたる日本とグアテマラ政府への働きかけがあったと聞いております。



また、ティカル遺産の保存・研究センターを中心にこれまで研修プロジェクトを実施されてこられて、当国の人材育成に貢献されています。また、母校の金沢大学でも、ティカル・プロジェクトを同大学の看板プロジェクトとして立ち上げ、若い研究者の指導・育成にあたっておられます。



地域資源としてのマヤ文明遺跡の保存と活用についての研究もされておられます。2014年からは、ティカル周辺住民の生活向上プ



プロジェクトを実施中です。

また、学術交流面でも中村教授の御活躍で、当国デル・バジェ大学と金沢大とのパートナーシップに関する取決めが今年4月に署名された他、サンカルロス国立大学、マロキン大学との協力関係も積極的に推進されておられます。

マヤ文明は、紀元前4世紀から1世紀には既に確立されており、素晴らしい芸術・建築・彫刻を残し、世襲の王が支配する都市国家群が、熱帯雨林地帯で栄え、水資源管理に巧みであったことなどが知られております。マヤ文明は、旧大陸の4大文明に匹敵する一大文明であると理解しております。

中村先生は、このマヤ遺跡の研究・保存と学術交流活動を通じて、日本とグアテマラの架け橋の役目を果たしておられます。日本とグアテマラの人々との絆を深めて頂いたことに感謝の気持ちで一杯です。

◆日本人婦人会より腎臓病の子供たちへの医薬品寄付

25日、同婦人会役員が、バザーで集めたお金で医薬品を購入した上、ルーズベルト病院小児腎臓病施設を運営している Fundanier (Dr. Randall Meda) に寄付をされました。入院中の小児患者のための医薬品がしばらく無い状態で、大変に助かりますとの感謝の言葉が、ドクターからありました。毎年寄付をしており、今回は3回目となりました。



■天皇誕生日レセプション開催

12月2日午後、市内ホテルで天皇誕生日レセプションを開催しました。式典会場には、モラレス外務大臣(左写真:演壇上の方)、マルティネス、エストラーダ両外務次官他各省次官ら多数の政府関係者の御出席を得ました。さらには、カブレラ次期副大統領(右下写真:左端の方)も途中から御出席を頂き、両国国歌の斉唱後、当方挨拶、外務大臣挨拶、鏡開き、



ブリス経団連会長による乾杯の音頭と続きました。会場内には、今年80周年に関連した一年間の行事が大スクリーンに130コマの映像として映し



出され、寿司や天麩羅の和食コーナー、日本酒試飲コーナーがあった他、環境に優しい日本関連企業の製品展示ブースもあり、参加者の皆様も大



いに楽しまれたご様子でした。
式典参加者は、予想を上回って 4 百名を越え、会場内は満杯の状況になりました。式典は予定どおり始まりましたが、終了時間を大幅に超えて懇談をされる参加者も多く、大盛況のうちに幕となりました。また、当地 TV 局など多数メディアによる取材もありました。(了)

